

園芸部

「2019鍋奉行も納得。福鍋・満腹絶倒計画」  
県産秋冬野菜を自慢の鍋で召し上がれ

福島民友新聞社とJA全農福島主催の「2019鍋奉行も納得。福鍋・満腹絶倒計画」が今年度も開催されました。寒い季節の定番料理「鍋」を通して本県産秋冬野菜の魅力を広くPRし、消費拡大や風評被害払拭を図る事を目的とし、各家庭自慢の鍋レシピの募集を行いました。

11月12日(火)に開催された一次審査会では、事務局の予想を超える140組の応募があり、JA福島ビルにて書類審査を行いました。福島中央テレビ「ゴジてれ」でおなじみの佐藤文男先生には審査員長としてご協力をいただき、二次審査へ進む上位入賞者3作品と、佳作7作品を選出しました。

11月30日(土)には、福島ガスショールーム「PROME」にて二次審査会を開催し、上位入賞者に選ばれた3組による調理審査を行いました。各参加者は工夫を凝らした鍋を心を込めて調理し、審査員も真剣なまなざしで、味・アイディア・見た目・鍋の完成度を採点していきましました。厳選なる審査の結果、会津若松市



最優秀賞に輝いた小山郁子さん作「まるまるなべ」



審査員と参加者での記念撮影

小山郁子さんの「まるまるなべ」が最優秀賞に、いわき市 滝若菜さん・滝晴代さんの「福島うま辛鍋」と、郡山女子大学付属高等学校 今泉結愛さん・今泉友美さんの「トリガラスープ香る米粉だんごの愛情鍋」が優秀賞に輝きました。佐藤文男審査員長からは「今年度は浜・中・会津と県内3地方の特色が出ていた。鍋で大事なのはいかにベース(だし)を整えるかなので、今後もベースを意識して料理をしてほしい」などの講評をいただきました。

最優秀賞に輝いた鍋は、今後県内協力飲食店で提供される予定です。JA全農福島は協力飲食店に本県産秋冬野菜を提供するなど、継続した消費宣伝活動を行ってまいります。

燃料部

令和元年度JAグループ福島  
クミアイプロパン保安講習会開催

令和元年11月26日にクミアイプロパン保安講習会が郡山市の清稜山倶楽部で開催されました。この講習会は県内のJA・JA株式会社からLPガス担当者を募集し、お客様にLPガスを安全にご使用いただくために、法令・保安知識並びに商品知識の習得を目的としています。

はじめに、平成30年度全国販売所マツチレースにおいて、JAあいづ燃料(現、(株)JA会津よつば総合サービス)が需要拡大コースにて全国3位の成績を取め表彰されました。

また、令和元年3月8月の期間で行われた福島県ガス器具販売促進マツチレースにおいて上位入賞者が表彰され、(株)JA会津よつば総合サービスの星貴昭氏が最優秀賞となりました。



左から梅津正夫氏(優秀賞)・星貴昭氏(最優秀賞)・佐藤副本部長・菅澤秀和氏(優良賞)

研修事項では、はじめに福島県危機管理理部消防保安課・副主査 矢口翔太氏より、「LPガス保安情勢と行政指導」に関して講演をいただきました。事故発生状況や保安指針の説明を受け、保安確保の大切さについて改めて認識を深めました。

イワタニ首都圏横濱支店長・西原誠氏より「LPガス販売店における販売方針」についてご講演いただきました。お客様との接点を強化していくことが重要であり、お客様に寄り添った提案を行う大切さを学びました。

リンナイ(株)郡山営業所・遠藤真也氏より「ガス衣類乾燥機」の説明をいただきました。電気式の衣類乾燥機に比べ乾燥時間が早いというメリットについて実際に濡れたタオルを乾燥する実演を行い、参加者も感触を確認し、ガス衣類乾燥機の良さを実感しました。



ガス衣類乾燥機を説明するリンナイ(株)遠藤真也氏

(株)JAあいづLPガス情報センター・新井淳氏より「次世代NCUの開発状況」について説明があり、ガスの利用状況を見守るシステム(愛称:あんしんキャッチャー24)についての保安知識を深めました。

今回の研修内容を踏まえ、クミアイプロパン担当者がより一層お客様に安全・安心にクミアイプロパンをご利用いただけるよう努力するとともに、快適な生活提案できるエネルギー事業者となれるよう取組んでまいります。

管理部

全農リポート説明会  
2019を開催

JA全農福島は、令和元年12月10日(火)、福島市のザ・セレクトン福島にて、県内マスメディア(テレビ局・ラジオ局・新聞社)の報道担当者27名にご参加いただき、全農リポート説明会2019を開催いたしました。

説明会では、JA全農の事業への理解を深めていただくため、全農自己改革のDVDを視聴いただいた後、全農リポートの内容を中心に本会が取り組む事業について、全農竹本尚史常務理事から説明を行いました。全農 広報・調査部 落合成年部長からは全国の広報活動について、当県本部 猪股孝二県本部長か



全農事業活動を説明する全農 竹本尚史常務理事



活発な意見交換がなされました。



県内マスメディア(テレビ局・ラジオ局・新聞社)

らは「2020へ向けて」と題し、2019年度のJA改革の取り組み「深化・進化」について、2020年度の「川上から川下まで」について県本部の取り組みを報告しました。その後の意見交換では、マスメディア各社から、本会に対するさまざまなご質問・ご意見をいただきました。JA全農福島は、メディア各社様のご協力をいただきながら、今後も農業および福島県産農畜産物の消費拡大に向けたPR等の情報発信に力を入れてまいります。

園芸部

令和元年度 果樹(モモ・ナシ)  
病害対策セミナー開催

JA全農福島園芸部は福島県、JA福島中央会と共催し、11月15日(金)、JA福島ビルにて、果樹病害対策セミナーを開催しました。今年度の果樹栽培において重大な課題となったモモせん孔細菌病ならびにナシの黒星病については、被害実態を踏まえて、次年度の栽培に向けた防除対策が急務となっている事から、地域が一体となった病害対策の再認識と徹底を促すことを目的に開催しました。

開催に先立ち、当県本部・佐藤勝則副本部長から、「関係機関が一体となって取り組むことで生産者の農業経営に貢献していきたい」と主催者のあいさつを行いました。続いて、第1部は、「モモの病害対策」として、福島県農業総合センター安全農業推進部 発生予防課・薄井智之技師から「県内の発生状況」について、福島県農業総合センター果樹研究所病害虫科・七海隆之副主任研究員からは「モモせん孔細菌病の防除対策」についての説明がありました。

第2部では、「ナシ黒星病対策」として、福島県農業総合センター安全農業推進部 発生予防課・薄井技師から、「令和元年度のナシ黒星病の発生状況」について、福島県農業総合センター果樹研究所病害虫科・七海副主任研究員から、「対策には耕種的防除・薬剤防除の徹底(開花前後の防除、秋期防除、生育期間中の定期散布)が必要」と説明がありました。

特別講演として富山県農林水産総合技術センター園芸研究所果樹研究センター・舟橋志津子主任研究員から、「ナシ黒星病に対する精度の高い落葉処理について」農作業機械を用いて落葉を中耕・粉砕をし、

残存落葉量を減らす事で発生は軽減され、薬剤防除の徹底と芽基部病斑や罹病葉の除去を生産者全体で取り組む事が有効」と説明がありました。今回参加できなかった方とも情報を共有し、産地全体で取り組む事が重要であることを確認したセミナーとなりました。



特別講演 富山県 舟橋志津子主任研究員



佐藤勝則副本部長あいさつ